

イタドリ

概要

イタドリ（学名：*Polygonum cuspidatum*）はタデ科の多年生草本で、日本各地に広く分布します。日当たりの良い土手や川原、山崩れ跡など様々な場所に生育し、肥沃な場所では大きく成長し、高さ2m以上にもなります。

春先に出るタケノコ状の若芽を山菜として利用します。本県はイタドリの消費量が多く、郷土料理の一つにもなっていますが、料理方法や味付けは地域により様々で、呼び方も「ごんぱち」「すかんぽ」「すっぽん」など色々です。最近では、環境の変化や乱獲、シカの食害などで太くて品質の良いものが減少しています。



栽培歴

栽培形態	年数	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
露地栽培	1年目	元肥・(マルチ)定植			除草								
	2年目	追肥		追肥		除草							
	3年目以降	追肥		収穫	追肥								

栽培適地

川原や野原から山地までどこにでも見られる植物です。太くて強靱な地下茎で繁殖し、石垣やアスファルトを割って芽を出すこともあります。栽培適地は、日当たりが良く、水はけの良い場所ですが、土壌への適応性が広く、山間地の耕作放棄地や休耕田も活用できます。

繁殖形態

イタドリは雌雄異株で、秋には雌株に翼がある種子を着け風散布されます。定着後は地下茎を伸ばし、崩壊跡地などにも先駆的に侵入し群落を形成します。地下茎で繋がっている株は全て同じ個体となります。

イタドリは軸が赤い系統と緑の系統があり、赤い方が皮が剥きやすく加工しやすいようですが、地域によって好み分かれます。秋までに軸の太さや色を確認し、優良な系統を選定し苗づくりの親株とします。



イタドリの繁殖形態

栽培方法

植栽する株の形態として、山引き株、実生苗、地下茎苗がありますが、地下茎苗が最も効率良く育苗できることから、ここでは地下茎のポット育苗による栽培方法について解説します。

(次項の試験1を参照)

(1) 地下茎ポット苗の作り方

- ①11月～3月にイタドリの地下茎を掘り取ります。
- ②8mm以上(鉛筆位)の太さの地下茎を長さ10cmに切り分けます。
- ③黒ポリ鉢に水平挿にして伏せ込み、1cmの覆土をします。用土は赤玉土などを用い、適宜灌水します。
- ④4月に発芽します。複数の芽が出た場合は、間引きをして1本にします。
- ⑤6月には30cm程度の定植苗に育ちます。



植え付け(3月)



地下茎ポット苗(6月)

(2) 定植

苗の定植適期は春植え(3月)で、秋植え(11月)も可能です。なお、1年生の地下茎ポット苗は6月には30cm程度に成長するので、梅雨時期でも植え付けできます。

植栽場所はあらかじめ耕耘し、元肥として堆肥を10a当たり3t施しておきます。休耕田のような水はけが悪いところは、20cm程度の高畝にすることがポイントです。株間、条間は50cm～1mとし2条植えが管理しやすくなります。

定植後1～2年目は雑草の繁茂が著しいので、植栽時に黒マルチをしておくと除草作業の省力化が図れます。生育も促進され、茎の太さや株数を増やすにはマルチ栽培は効果は大きいです。(次項の試験2を参照)



定植作業



マルチ栽培(2年目)

(3) 獣害対策

シカによる食害やイノシシによる掘り返しの被害がありますので、栽培地を獣害防止ネットで囲むなどの対策が必要となります。

(4) 栽培管理

マルチをしない場合は、除草作業が不可欠となります。イタドリは肥料の要求度が高いと考えられます。試験では追肥として窒素肥料10g/m²を3月(芽が出る前)と5月(収穫後)に施すと良い結果が得られました。冬に枯れた茎は、邪魔にならないように収穫時期までに全刈りしておきます。



試験1：育成方法別栽培試験

植栽株の形態別に比較し、効率よく、早く収穫に至る栽培手法の検討結果。

植栽株の形態と特徴



A区:山引き株



B区:実生苗



C区:地下茎苗

山引き株:自生地で掘り取った親株。掘り取り作業に労力を要する。

実生苗:種子の採取が容易で発芽率も高いが、定植苗まで2年間の育苗が必要となる。

地下茎苗:地下茎を分割して伏せ込み発芽した苗。実生よりも成長が早い。

イタドリ育成方法別(植栽株・施肥)栽培試験

試験区	植栽株	施肥	定植後28ヶ月(H24.7.17)				収穫量(H24.4月)	
			欠株数	発生本数	草丈長(cm)	株径(cm)	本数	重量(g)
A-1	山引き株	なし	5	2.8 ± 1.6	188 ± 53	1.4 ± 0.6	2	132
A-2	山引き株	元肥・追肥	2	3.9 ± 2.2	214 ± 49	1.4 ± 0.4	11	682
B-1	実生苗	なし	2	3.5 ± 1.5	241 ± 43	1.6 ± 0.4	9	610
B-2	実生苗	元肥・追肥	2	3.9 ± 2.2	252 ± 40	1.6 ± 0.4	4	314
C-1	地下茎苗	なし	2	3.3 ± 1.4	216 ± 49	1.5 ± 0.5	11	675
C-2	地下茎苗	元肥・追肥	3	4.5 ± 2.0	221 ± 55	1.6 ± 0.3	21	1,173

※畝高:15cm 畝幅:100cm 2条植:株間・条間50cm 定植日:平成22年3月15日 供試株数:各20本
収穫量は若芽の根元径1.5cm以上、長さ50cmを基準とした。

① どの試験区も定植後3年目で収穫が可能になった。

② 収穫量は地下茎苗が多く、特に、施肥区は発生本数も多くなった。

■ 地下茎苗は効率よく、早く収穫に至る。施肥により収量増が期待できる。

試験2：黒マルチ省力化栽培実証試験

定植後1～2年目は除草に多大な労力がかかるため、黒マルチ被覆による効果の実証結果。

マルチによる省力化栽培実証試験

試験区	植栽株	施肥	定植後16ヶ月目(H24.7.17)			
			欠株数	発生本数	草丈長(cm)	株径(cm)
黒マルチ	地下茎ポット苗	元肥	1	5.1 ± 1.3	244 ± 25	2.2 ± 0.6
なし	地下茎ポット苗	元肥	0	2.7 ± 1.5	161 ± 42	1.3 ± 0.5

※畝高:15cm 畝幅:100cm 2条植:株間・条間50cm 黒マルチ:厚さ0.02mm(ポリエチレン製) 供試株数:各10株
地下茎ポット苗:太さ10mm、長さ10cmに分割した地下茎をポットで育苗した1年生苗 定植日:平成23年3月22日

① 黒マルチ区は、発生本数、草丈長、株径ともに極めて良好な生育となった。

② マルチにより雑草の影響を排除する効果大きい。

■ 黒マルチは生育を促進し、省力化と早期収穫に効果大きい。



地下茎ポット苗
(H23. 3月定植)



黒マルチ被覆(H23. 6月)



若芽の発生(H24. 4月)

(5) 収穫

定植後3年目から収穫できます。太さ1.5cm以上、長さ30cmが標準的なサイズですが、出荷場所毎に好むサイズがあるのでそれに合わせるように収穫します。

全て収穫すると株が弱ってしまうので、しっかりした軸を1株につき1本は残すようにします。



調理例

- ①皮を剥きやすくするため、熱湯にくぐらせるか、60～70℃（手を入れられるかどうかの熱さ）のお湯に1分間漬けます。茹でると柔らかくなり形が崩れてしまうので、湯どおしする程度にするのがコツです。
- ②熱いうちに皮を剥き、酸味（シュウ酸）を抜くために流水に一昼夜さらすか、60～70℃のお湯に漬けます。
- ③塩漬けにして保存する場合は、皮を剥いたイタドリをそのまま塩に漬けます。出てきた水を捨て、塩を追加して漬け込むと酸味も抜け、長期間保存できます。
- ④水にさらしたイタドリは、シャキシャキとした歯ごたえがあり、そのまま刻んでサラダにも使えます。
- ⑤塩漬けしたイタドリは、水で塩抜きしてから調理をします。



皮剥き



酸味抜き

イタドリは本県の郷土料理の一つであり、和え物や炒め物、煮物など様々な料理方法があります。

日高川町の旧美山村では、イタドリを加工した「ごんちゃん漬け」が作られ販売されています。イタドリを加工した商品は珍しく、全国各地から注文や問い合わせがあるようです。



編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 和歌山県西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL 0739-47-2468 FAX 0739-47-4116

HP <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/006/index.html>

平成25年3月 発行

■地球環境保護のため、
植物油インクを使用しています。

